

消費動向指数（CTI）の 2025年基準改定に係る検討について

令和8年1月15日
総務省統計局消費統計課

消費動向指数（CTI）の概要

消費動向をマクロ・ミクロの両面から捉える速報性の高い消費指標：消費動向指数（CTI：Consumption Trend Index）を2018年1月分から毎月公表

世帯消費動向指数 （CTIミクロ）

世帯の平均消費支出額（10大費目別、世帯類型別など）の月次動向を示す統計指標

- ◆ 家計調査（標本規模：二人以上の世帯 約8千、単身世帯 約7百）の結果を、
 - 家計消費単身モニター調査（標本規模：約2千4百）
 - 家計消費状況調査（標本規模：約3万）の結果等と統計的手法によって補正・補強し、標本規模を擬似的に拡大、推計精度を向上



総消費動向指数 （CTIマクロ）

国内経済における個人消費総額の月次動向を示す統計指標

- ◆ GDP統計（家計最終消費支出）をターゲットとして、最新の動向を推測
- ◆ GDP統計の四半期別公表値では観測できない月次の値を時系列回帰モデルによって推計
- ◆ 2022年12月に、ビッグデータ利活用の成果に関する報告書をウェブサイトに掲載

第27回消費統計研究会について

- 2025年基準改定に際して、CTIの有用性の向上を図るため、以下のとおり情報の充実を図りたい旨を御説明

【CTIミクロ】

- ✓中分類指数の公表
- ✓大分類「その他の消費支出」について、実質値及び季節調整値を公表

【CTIマクロ】

- ✓うるう年成分の除去
- ✓持家の帰属家賃を除く系列の追加公表

【共通】

- ✓年度結果の公表

⇒ 上記に関して御賛同いただいた一方で、

指数の公表形式について、引き続き検討を行うこととなった

現在の指数の公表形式について

■現在、消費動向指数は内訳型指数（小数第4位まで利用可能）

✓内訳型指数：

基準年の消費支出の平均月額を100とした際の割合を表章

分類	202001	202002	202003	202004	202005	202006	202007	202008	202009	202010	202011	202012
消費支出	102.7029	98.8200	105.0072	95.0979	90.0264	99.1162	95.8171	99.3765	96.8441	102.8343	100.9740	113.3834
食料	25.7665	25.5171	26.9486	24.7274	26.0771	25.9188	26.6054	28.3020	26.3245	26.8721	26.7415	32.7849

✓小数第4位：

e-Statに掲載している結果表において、小数第4位までの数値を保持
ただし、各セルの表示形式は、公表冊子の記載と同様に小数第1位まで

<結果表>

時間軸コード		月	消費支出（名目）	食料（名目）
2017000101		2017年1月	104.3	25.6
2017000202		2017年2月	95.7	23.9
2017000303		2017年3月	112.9	27.1
2017000404		2017年4月	108.8	26.2
2017000505		2017年5月	103.8	27.5
2017000606		2017年6月	98.2	26.1

<公表冊子>

年 ・ 四半期 ・ 月	世帯消費動向指数（原数値）	
	総世帯 名目値	実質値
2022年	102.7	100.0
2023年	105.3	98.8
2024年	107.4	97.6
2023年 7～9月期	102.7	96.0
10～12月期	109.5	101.2

今後の指数の公表形式について

- 内訳型のほか、各分類における基準年平均を考慮した基準年平均 = 100指数も一定の有用性があると考えられる
- 既に公表している指数との整合性や統計作成のリソースを踏まえ、今後の指数（新たに公表する中分類指数等を含む。）の公表形式を以下の方向性としたい
 - ✓ **内訳型指数（小数第4位まで）を作成**
 - ✓ ただし、小数第4位までの指数は、利用者が自ら計算する際に利用することを想定した参考値であり、公表冊子等では引き続き小数第1位までの指数を公表
 - ✓ **基準年平均=100指数の作成方法をHP上でユーザーに案内**

基準年平均=100指数の作成方法

- 基準年平均=100指数は、①当該年と基準年平均の内訳型指数を用いて求める方法と、②支出金額から求める方法の、二通りの方法が考えられる

(例)

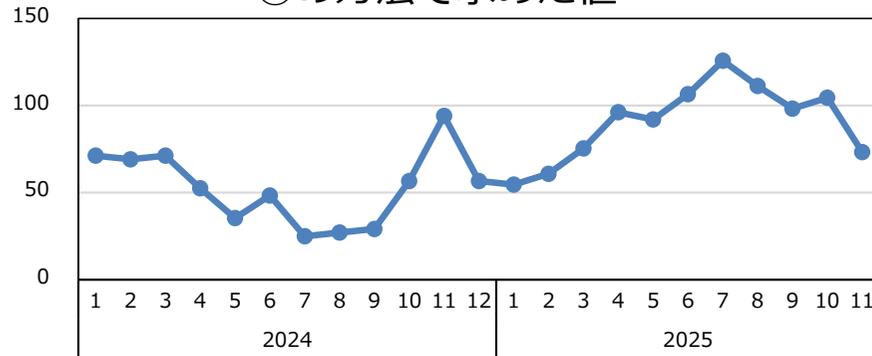
	基準年平均	2025年1月	
①内訳型指数	26.8822 (A)	29.0482 (B)	 $B/A * 100 = \underline{108.1}$
②支出金額	66719円 (C)	72095円 (D)	 $D/C * 100 = \underline{108.1}$

- 計算上、①の方法で求めた値と、②の方法で求めた値に若干の差が生じ得るが、2024年以降、差の絶対値が0.1を超える中分類項目は「賄い費」のみ

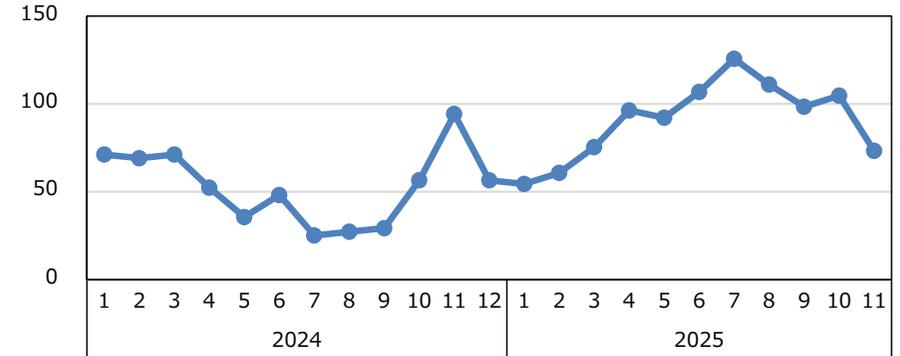
実データを用いた比較（賄い費）

■ 指数の動きと比較してはるかに差のスケールは小さい

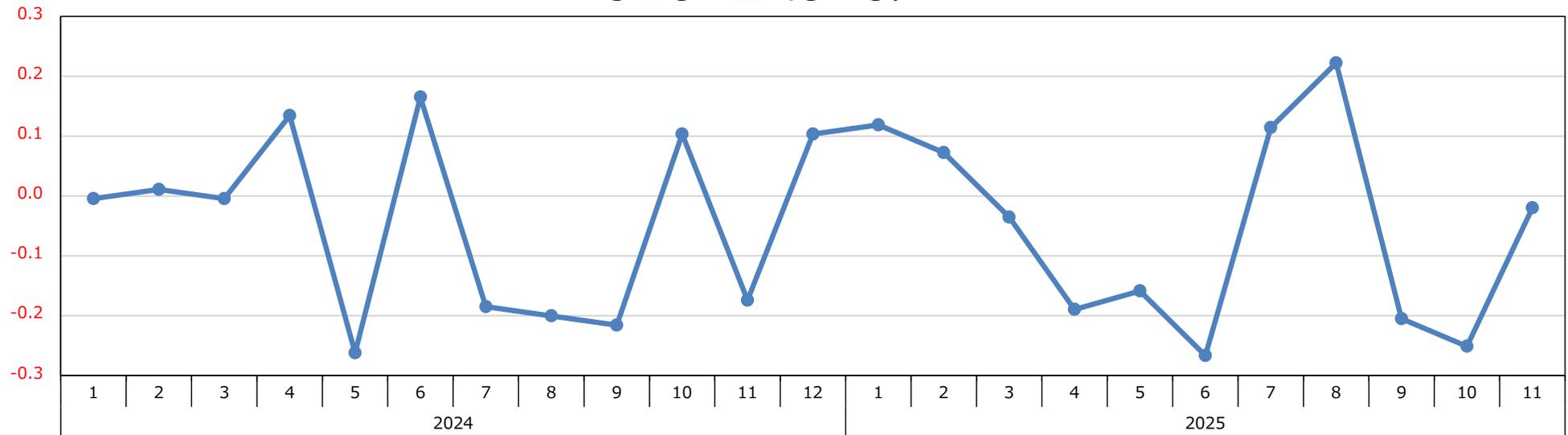
①の方法で求めた値



②の方法で求めた値

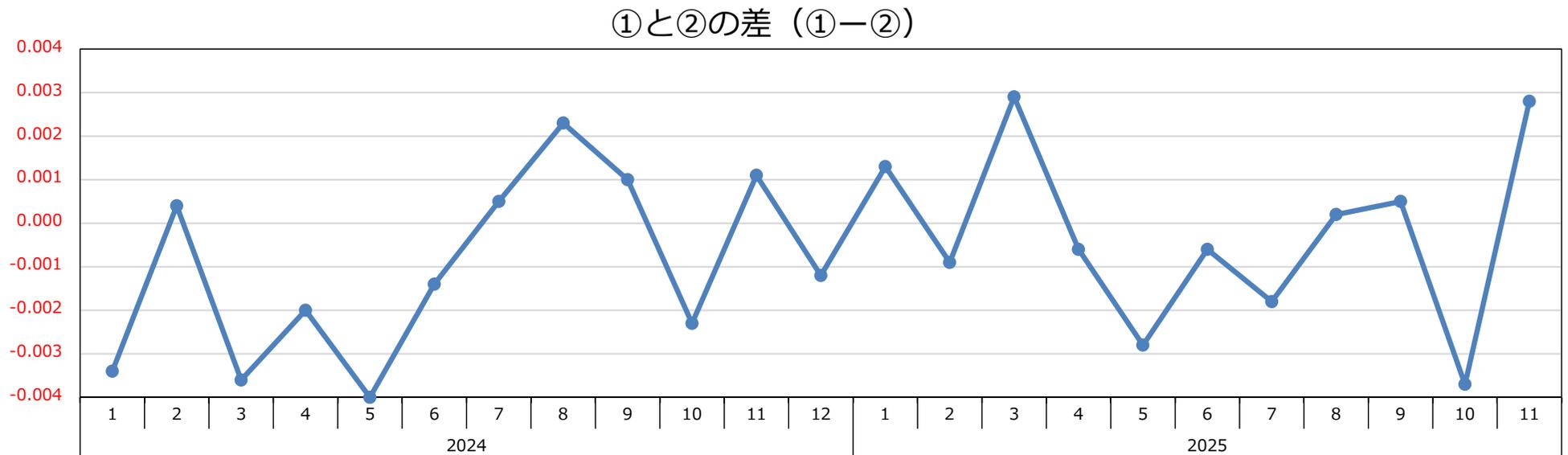
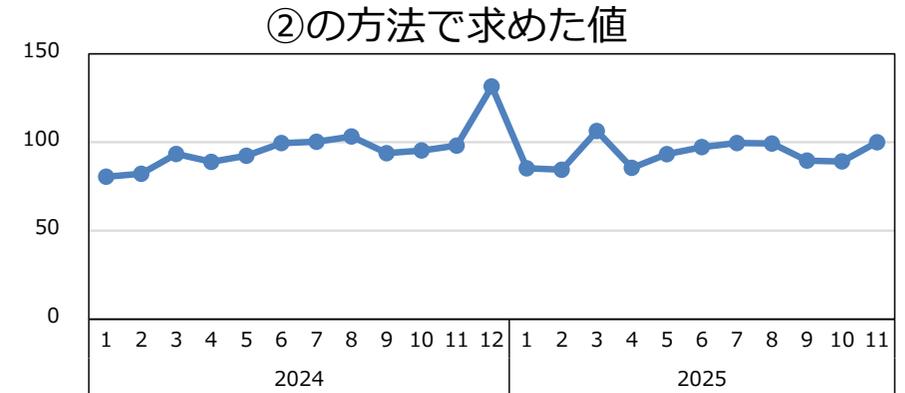
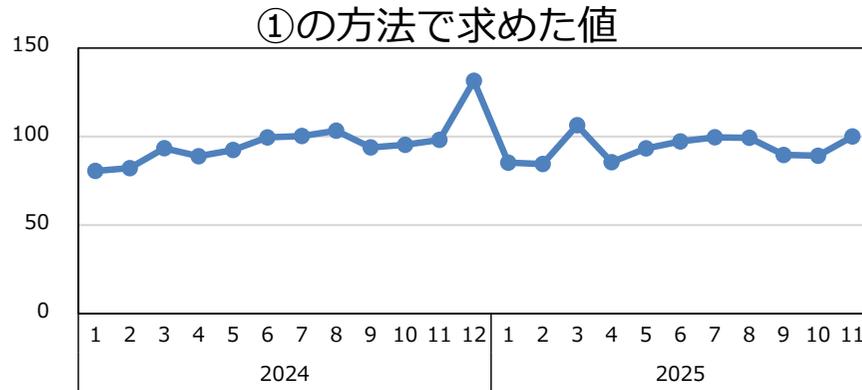


①と②の差（①－②）



実データを用いた比較（参考：酒類）

■ 「賄い費」と比較してさらに差のスケールが小さい



基準年平均=100指数の作成方法

- なお、支出金額から基準年平均=100指数を算出する場合は、参考詳細表を用いて算出可能

<参考詳細表>

統計名：	消費動向指数				
統計表番号：	第1表				
表題：	世帯人員別1世帯当たりの品目別支出金額				
2025年10月					
合成金額 総世帯					
一連番号	時間軸コード	階層コード	品目分類	単位	平均
11	2025001010	1	消費支出	円	265,790
12	2025001010	2	食料	円	76,827
13	2025001010	3	穀類	円	7,804
14	2025001010	4	米	円	3,814
15	2025001010	4	パン	円	2,277
16	2025001010	6	食パン	円	692
17	2025001010	6	他のパン	円	1,585

⇒ ユーザーに対しては、内訳型指数から求める方法（簡単な方法）と、支出金額から求める方法（厳密な方法）の両方を案内したい